

行田歴史系譜 339

資料がかたる 行田の歴史 39

お酒屋さんの御用聞き〜丁稚奉公人日記の世界〜

かつて行田下町には、山星金屋(屋号は山・)という酒造がありました。近江日野商人であった鈴木忠右衛門が江戸時代に開いたこの酒造は明治・大正・昭和期の行田に活気をもたらしていた店の一つでした。山星本店で働いていた丁稚奉公人・殿島信三郎の日記が、行田から遠く離れた滋賀県蒲生郡日野町にある近江日野商人館で大切に保存されています。今回はこの日記を通して奉公人信三郎の日常を紹介します。



殿島信三郎 大正六年度日記帳(近江日野商人館蔵)

信三郎の毎日の仕事は、山星本店の得意先の注文を回って回る御用聞き、酒類の納品、そして空き樽・瓶の回収が主でした。彼が営業で足を運んだ範囲は、山

星本店のある現在の行田市域を中心に、鴻巣市、羽生市、熊谷市、東松山市、群馬県館林市、邑楽郡明和町と広範囲に及びます。訪問手段は御用聞きや代金領収の場合は自転車や徒歩、大口の納品や空き樽・瓶の回収がある場合は他の従業員の助けを借りて大八車を引くこともありました。

また、外出しない日は店内で瓶の洗浄、酒類の瓶詰め、樽や瓶のペーパー貼りをしています。このような日常的な仕事までも欠かさずに毎日書き留めている日記には、信三郎の勤勉で几帳面な性格がにじみ出ているようにさえ感じられます。

信三郎は店主の鈴木忠右衛門と同様に近江日野の出身で、大正元年(1912)11月に14歳で奉公に入ります。近江商人は近江出身者を従業員として雇用する傾向があり、彼もその例に漏れず故郷を離れ行田の地で働き始めます。それから山星本店での勤務は昭和18年(1943)6月まで30年余り続き、信三郎は45歳まで行田で暮らしました。山星本店の近江出身従業員は他の地域で働く近江出身者と比べて20年以上働く者が多いことが近年の研究で判明しており、それほどまでに行田を第二の故郷として働き生活する労働者たちがいたことを物語っています。

(郷土博物館 澤村怜薫)

はじめまして



令和3年8月生まれのお子さんを募集します

- 6月1日(水)〜30日(木)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
応募者多数の場合は、7月1日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和3年6月生まれのおともだち



根岸 大智ちゃん(長野)
令和3年6月27日生まれ
父・眞司さん 母・静香さん
「いつも笑顔がありがとう!」
「すくすく元気に育ってね!」



加藤 友那ちゃん(長野)
令和3年6月12日生まれ
父・陽亮さん 母・由妃さん
「我が家のアイドル!」
「LOVE♡」



佐藤 充ちゃん(門井町)
令和3年6月24日生まれ
父・雄次さん 母・奈津子さん
「充実した人生を!」



須加 千晴ちゃん(堤根)
令和3年6月19日生まれ
父・伸宏さん 母・明日香さん
「晴々と健やかに成長してね!」



鈴木 柚乃ちゃん(城西)
令和3年6月24日生まれ
父・基史さん 母・未央さん
「ニコニコ笑顔が」
「みんなの癒やし♡」



小菅 日向ちゃん(小見)
令和3年6月20日生まれ
父・陽さん 母・千晴さん
「これからも笑顔いっぱい」
「日向でいてね♡」

今月の表紙

本市では、「子どもと親が笑顔で安心してくらせるまち ぎょうだ」の実現を目指し、切れ目のない子育て支援に取り組んでいます。
将来の社会を支える子供たちを、安心・安全に育てられるよう、地域全体で子育てをサポートしていきましょう。



現在の友だち登録数28,700人!

行田市公式LINEの友だち登録はこちらから!

● 市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。



ホームページ https://www.city.gyoda.lg.jp



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは再生紙を使用しています